

いつでも どこでも あたらしい
五十鈴グループ

VISIONARY REPORT 2018

ビジョナリーレポート





ビジョナリーレポート発行に寄せて

五十鈴グループは「ビジョナリーカンパニー」を目指しています。

ビジョナリーカンパニーとは、「揺るぎない理念を实践することで、時代を超えて常に組織として成長・進化していく企業体」であり、五十鈴流に言えば「気分よく働けて、業績がよく、自己成長できる会社」です。

私たちは、地球市民として世界に貢献することを志し、世界中のあらゆるステークホルダーの皆さまとの協生・協栄を通じ、創発的な価値を生み出す「協創」のプロセスを育んでいきたいと考えています。

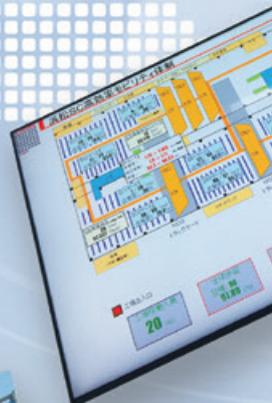
その一つとして、五十鈴グループでは、長期経営目標「Will-Navi」がスタートした2010年度から、ビジョンの実現に向け、グループ各社それぞれが実践してきた1年間の経営の軌跡を「ビジョナリーレポート」として整理しています。

2020年度をゴールとする「Will-Navi」に至る、最終コーナーが見え始めています。

私たちが、価値を生み出す企業体になるプロセスをご覧ください、可能性を感じていただきたいという思いから、現在の活動報告にとどまらず、今後の展望についての情報を多く掲載しています。

本レポートを通じて、多くのステークホルダーの皆さまとの「協創」の輪が広がることを願っております。

※『ビジョナリーカンパニー~時代を超える生存の原則~』ジェームズ・C・コリンズ/ジェリー・I・ポラス(日経BP社)



VISIONARY REPORT 2018



CONTENTS

はじめに…………… P1
Introduction

CEOメッセージ
CEO message

五十鈴株式会社 代表取締役社長 鈴木 貴士………… P3

特集 We are VC !
We are VC !

1. 世の中に必要とされる新たな価値の協創を… P5
2. スマートファクトリー
～新最適を実現する
オペレーションバリュー～………… P7
3. 「待機時間ゼロ」をキッカケに
物流価値を生み出す………… P9
4. 職場の安全・安心を全員参画で創る …… P10

五十鈴グループCSR全体像…………… P11
CSR management

CSRトピックス …………… P13
CSR topics

概要 …………… P14
Corporate profile & data

事業概要
財務データ



2020年、 ～バリュ

多様な価値の芽が生まれた 2017年度

2017-18 中期経営計画の初年度となる 2017 年度は「VC (バリューセンター) 基盤の構築」という基本方針のもと、活動を進めてきました。一般的に「基盤」というと、仕組みや構造などをイメージしますが、ここでいう基盤は「思考のパラダイム (ものの見方や捉え方)」にとらえています。

私たちは「We are VC !」を合言葉に、前中期から引き続き、自分たちが生み出す価値とは何か、価値を生み出す組織とはどのようなものなのか、グループ各社が実践を通じ、思考してきました。そして今、多くの価値の「芽」が生まれています。

スチールサービス部門では、既存の自分たちの領域である「鉄 (鋼板加工・販売)」から派生する、あるいは「鉄」にとらわれない価値や機能を探究してきました。その結果、たとえば、様々なパートナーと共に、お客さま製品の OEM 製造や、新マーケット開拓を進めるなど広がりが生まれています (P5-6)。ソリューション部門の五十鈴ビジネスサポート (IBS) も、鉄鋼メーカー・商社の戦略実現に向けて、五十鈴グループ内やパートナーのノウハウを組み合わせ提供するプロデュース機能を果たしはじめています。

折しも今、世の中の大きな課題は「人手不足」です。五十鈴グループも例外ではありません。ただ、これまでも我々は知恵を出し、設備投資や人材投資をかさね、生産性向上で乗り切ってきた歴史があります。

業務においては「スマートファクトリー」をコンセプトに、AI や IoT といった時流を取り込み、生産性向上や収益力強化につながる、最適なオペレーションの研究開発を進めました (P7)。

ロジスティクス部門のワーレックスは、社会問題にもなっている運送業界の長時間労働解決の一助となる、待機時間削減の取り組みをスチールサービス部門と協働で

その先に向けた「ビッグシフト」を図る —センターとしての形を明らかに—

代表取締役社長 鈴木 貴士

行い、運送約款改正とも連動し、効果を上げはじめています。荷主（サービスセンター）の理解を得られ、協働が促進されやすいのが、グループ経営の良いところです。サービスセンター側も、待機時間削減に取り組むことで、結果的に構内物流やお客さまとの輸送改善につながりはじめています。この動きを、MOSH D（メタルワン・サービスセンター・ホールディングス）グループのサービスセンターへ拡大することで、さらに効果は大きくなるはず（P9）。

バリューセンターとは何か 自覚できる「形」にする

このようにVCビジネス拡大の手ごたえがつかめた一方で、様々な動きが一気に拡散しすぎて、バリューセンターとしての全体像がつかみきれないというのが、2018年年初の状況です。社長の私も一つひとつの話を聴いても、全体として何が起きているのかよくわからない。

また、キャッチフレーズとして掲げた「バリューエマージェンス（価値の創発）」の観点から見ると、各社それぞれが独自のコンセプトをもってしっかりやってくれた分、各社間のシナジーまでには発展しなかった面があります。

2018年度は、刺激しあいながら、自分たちが生み出しているプロセスモデルがいくつあるのか、類似しているものは何なのか…、「バリューセンター」の形として収斂させることが必要です。そして「これがバリューセンターだ」と自分たちが自覚できる形にすることが、2017-18中期の定性目標にも掲げている「VCアイデンティティーの創造」につながるはず（P9）です。

そしていよいよ、次期中期は2020年ゴールの長期経営目標「Will-Navi」への仕上げの時期となります。その先の未来を見据えながら、自分たちが思うだけでなく、他者からもバリューセンターとして認められるような大きなストーリーにするために、今年度は「ビッグシフト」する年となります。

天動説から地動説に変わった時のように、これまで「最

2017年度

基本方針 「VC基盤の構築」

キャッチフレーズ 「バリューエマージェンス」

実績 売上高 1,157 億円 販売重量 112 万 t
経常利益 25.2 億円 純利益 17.1 億円

2018年度

基本方針 「新最適の追求」

キャッチフレーズ 「ビッグシフト」

適」であったことがそうでなくなることも出てくるでしょう。これまでと異なる「最適」を探究しながら、スピード感を持って実現する、組織としての機動性を身に付けることが、2018年度末に目指す状態です。

大きく変える一方で、 「変えてはならないもの」を大切に

10年ビジョンを通じ、意志を持ち連続性の中で経営を推進してきましたが、これまでの常識をもう一度とらえなおし、時代に沿って変えていく一方で、五十鈴は五十鈴らしくあり続けることも同じくらい大切です。

「不易流行」という言葉にあるように、創業者精神や理念は「変えてはならないもの」として継承していく必要があります。

その象徴の一つとして、新入社員には、入社式で「三縁」の話をしています。

お客さまとの縁、株主との縁、従業員との縁。縁を結び、縁を尊び、縁に随（したが）う。その中から価値を生み出し続け、いつの時代も、どこにおいても「世の中に必要な存在」になるような、企業体としての大きな変化を遂げることを目指してまいります。

We are VC!

2020年ゴールの長期経営目標「Will-Navi」の具現化に向けて、2017年度は基本方針「VC（バリューセンター）基盤の構築」のもと、価値を生み続ける組織への転換を図ってまいりました。マーケット創造やオペレーション変革、協働開発…。グループ各社で日常的になった、価値の企画～実現プロセスの一端を「We are VC!」としてお伝えします。

Topics 1

世の中に必要とされる 新たな価値の協創を

お客さま、世の中に必要とされる価値とはどのようなものなのか。そして現在のみならず、未来に必要とされる価値とはどのようなものなのか…。

各社が、それぞれ「バリュー企画」を推進するバーチャル組織を持ち、コンセプトに合わせたリサーチ情報の集約～ビジネス企画や、全員参画で日常的に推進するための組織の在り方を検討しています。

グループにおいては、五十鈴ビジネスサポートが社会問題や鉄鋼サプライチェーンに関わるニーズを広く収集し、グループ各社やパートナーの知見を活かし、組み合わせるプロデュース機能を果たしています。



コミュニティで価値を「発見・企画」する

自分たちの感じているものづくりに関わる課題を一般化し、解決の糸口を共に探るために、産学官のビジネスパートナーと協働しています。

産学官の連携で社会問題解決の糸口を発見

ものづくりの労働環境改善



五十鈴東海では、産業技術IT企業と協働し、ものづくりの労働環境を変えるIT機器を協働開発しています。構内物流や安全など現場で解決したい問題について、試験的に開発したものを実際に使いながらブラッシュアップしています。開発の際には、汎用性やシンプルさを意図して具体化しています。

新たな物流システムを創る



五十鈴関東では、関東職業能力開発大学校と「新たな自動車部品サプライチェーンの最適化」というテーマで協働開発をしています。

2018年度は2年目を迎え、テーマも部品から包括的な「物流システム」へと拡大しています。

地域の産業振興へ貢献



地域の産業振興に関わる公的団体へ一員として加わり、地域の企業との協働開発を行っています。

例えば五十鈴中央では、f-biz（富士市産業支援センター）のアドバイスを受けながら、地域が抱える問題や様々な地場企業の強みを知り、具体的な協働につなげています。

コミュニティで価値を「実現」する

様々な強みを持つ複数のビジネスパートナーと共通目標のもと協働し、価値を「具体化」しています。

強み技術をかけあわせ、ものづくりの最適流通を実現

最適調達を実現するOEM製造



現地確認

五十鈴中央では、お客さまの最適調達に貢献するため、複数社のパートナーシップによる、最終製品のOEM製造をスタートしました。工程が複数社にまたがる中で納期と品質を担保するために、パートナーに対し業務プロセス改善や設備投資への提案まで実施したことで、実現につながりました。

物流問題を解決する製品・システム開発



五十鈴関東では、従来、鋼板の納入先だったお客さまに対し、構内物流への悩みをきっかけに、物流機器の開発と提供をはじめました。機器を利用するお客さまコミュニティからの声をヒントに、共通の課題を見つけ、機器の改良や、さらなる物流システムの開発へとつなげていきます。

日常的な情報共有・開発で、マーケットを共に拡大する

「超ハイテン」マーケットの創造



安城サービスセンターでは、鉄鋼メーカーと協働し、自動車マーケットでの軽量化の大きな役割を担う「超ハイテン」の需要拡大に向けた活動を行っています。部品メーカーに対し、日常の営業活動の中で素材情報を提供し、活用の可能性を共に考えるとともに、フィードバック情報を鉄鋼メーカーに提供し、さらなる開発に役立てています。

新製品の用途開発に貢献



浜松サービスセンターでは、表面処理鋼板メーカーの新製品のマーケット拡大を狙った活動を展開しています。

製品の使用用途を部品メーカーとともに考えたり、自社内で新製品を使った工場備品を実験的に開発し、素材特性を活かすあり方を提案しています。

日常的に「未来」「トレンド」「最先端技術」に関心を持つ規範へ

バリューセンターとしての風土が醸成されるよう、各拠点で独自の工夫をしています。



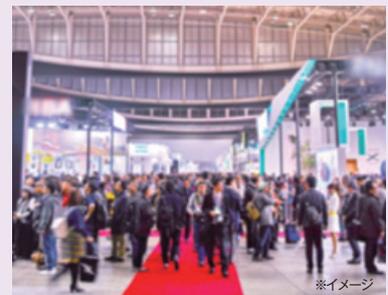
未来予想図ボード(安城SC)

2030年の自動車業界を予想し、可視化。収集した情報を随時追加し、社内やパートナーと情報共有しています。



ペアラボ(五十鈴中央)

世代の違うメンバーがペアとなり、世の中のトレンドから学習し、ビジネスの発想を広げています。



※イメージ

展示会等で新技術や外部パートナーに出会う(全社)

展示会等を通じて「自分たちのできること」にとらわれず価値を実現するための最先端技術やパートナーを見つけたい。

Topics
2

スマートファクトリー

～新最適を実現するオペレーションバリュー～

オペレーション業務においては、「スマートファクトリー」をキーワードに、「スマート」とは何か、望ましい業務のあり方を描き、日常的な実践の中で開発を進めています。

2016年度から掲げている「ゼロ・レス（半減以下）」と「セルフマイクロマネジメント（現場社員による日次での業績改善活動）」に、IoTやAI、自動化の動きを取り入れながら、効果性を高めています。

自社単体ではなく企業同士のつながりを生み出し、ものづくり企業の「ゼロ・レス」に寄与する、オペレーションバリューの創出を狙っています。

流通の間接業務「ゼロ・レス」化へ

自動化やシステム化を通じて、自社業務のみならず、ものづくりの流通プロセス全体における間接業務の「ゼロ・レス」を目指します。

生産管理業務においては「構内物流」に着目し、工程間の「間接業務」をゼロにする活動を推進しています。

事務業務においては、バックオフィス部門の事務処理を自動化する技術である、RPA（ロボティクス・プロセス・オートメーション）を2017年12月より導入しました。業務の特性や目指す状態に合わせ、事務業務の削減目標を定め、開発を推進しています。

ものづくりの物流コスト「ゼロ・レス」化へ

工程同期化×間接業務レスで、構内物流改革（太田サービスセンター）

太田サービスセンターでは、「シートリノベーション」をコンセプトに、シート加工体制を刷新しました。

もともと、お客さまの海外生産移管が加速する流れのなかで、「極小ロット」の加工が集中して残るエリアにおいて、「二次加工の切り板は採算が合わない」という長年の業界常識を変えようとはじまった取り組みです。

レベラーラインとシャリング機の工程を同期化し、仕掛かり在庫をなくすとともに、ローラーコンベアや自動搬送台車を導入し、構内物流を大幅に効率化。荷線（ぐ）り、荷探しや積み込みといった間接業務をなくし、加工能力を2017年度は約25%（前年度比）増加させました。

そして、ものづくり企業の共通課題である「物流」問題の解決の一つのあり方として、この取り組みで培ったノウハウをお客さまにも提供しはじめています。



ローラーコンベアや自動搬送台車で構内物流を効率化

RPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション)で事務業務の「ゼロ・レス」化

流通全体の事務オペレーションの無人化へ (富士サービスセンター)

富士サービスセンターでは、2017年度、コイルセンター事務業務について、自動化対象の項目別に業務を洗い出し、RPAによる自動化を推進した結果、約25時間/月の業務短縮を実現しました。

現在は、コイルセンター事務業務の自動化ノウハウをグループ全体に展開するとともに、自社のみならず、お客さま工程も含めて流通全体のオペレーションのゼロ・レスを実現する「セントラルオペレーション」のあり方を追求しています。



映像でのデモンストレーション

お客さまのBPI推進に貢献 (五十鈴ビジネスサポート)

お客さまのBPI*推進に貢献することを狙いに、「業務品質を維持向上させ続けるマネジメント」と「合理化を推進するプロセス」を追求する中で、鉄鋼流通における営業事務業務について、RPAを活用したオペレーションモデルを構築中です。膨大な時間がかかっている、取引やお客さま毎に異なる書類作成などの個別業務の自動化を図っています。業務品質やBLC対応を担保するために必要な新しいプロセスを考案し、全体の合理化につなげています。

* Business Process Integration (ビジネスプロセス統合)



IoT化で「セルフマイクロマネジメント」をより効果的に

2016年度にグループ展開された「セルフマイクロマネジメント」。2017年度はこれにIoTを取り入れる動きが活発化し、既にノウハウをグループ外へも展開しはじめています。

リアルタイムに進捗状況をセルフマネジメント(浜松サービスセンター)

浜松サービスセンターでは、2017年10月から工場内に「デジタルサイネージ」を設置しました。基幹システム「ATOM」とデータ連結し、各機種ごとの生産性・歩留まり・在庫状況が15分毎に表示され、各機種の目標数値(基準値)に対する進捗状況が、ひと目でわかるようになってきました。

「セルフマイクロマネジメント」をより効果的に進めるために、グループ会社のベル・インフォ・テックと表示方法を協働開発しました。

これらの目標数値は、従来翌日に帳票で確認していたものですが、デジタルサイネージを導入したことで、一日の中で、柔軟にフォーメーションを社員同士で検討し応援に入ることができ、各種数値改善までのスピードアップが図られています。

現在、採算管理など必要な機能を追加しながら、五十鈴グループ内及び他社サービスセンターに展開予定です。



Topics
3「待機時間ゼロ」をキッカケに
物流価値を生み出す

輸送と荷主の共通目標で、待機時間改善

五十鈴グループでは、輸送を担うロジスティクス部門と、荷主であるスチールサービス部門が協働して、「トラック待機時間ゼロ」をテーマに、解決に取り組んでいます。

トラック運送業界で社会問題化している「長時間労働」解決へ向けて活動しています。

「待機時間をゼロ」にするということは、サービスセンター構内物流や加工プロセスを最適化し、「必要な時に、必要な量」が出荷されることです。サービスセンターの生産性向上、労働時間削減にもつながるものであり、ゆくゆくはその先のお客さまも含めた物流価値を生み出すものととらえて、活動を行っています。

運送に関わる付帯業務をデータ化～構内物流変革へ
(LOGプロジェクト)

運送以外の積込み業務や荷物の待機が長時間労働の原因となっている一方、具体的にどの業務がどのくらい負荷となっているのか、実態がわかりづらい状態になっていました。そこで、実際にどの業務に時間がかかっているのかを洗い出し、可視化を行いました。

データをもとに、受注から加工、出荷までの全体プロセスの中でのボトルネックを洗い出し、詳細に検討することで具体的な取り組みを明らかにし待機時間削減につなげました。

結果が大きく出たサービスセンターの取り組みを分析しながら、五十鈴グループ内に展開し、効果創出につなげていくと共に、その先のお客さまの協働物流改善につなげていきます。



スマートフォン&AIで、帰社時間を正確に予測(岐阜サービスセンター)

2017年9月から、岐阜サービスセンターでは、産業技術IT企業と協働して「i-TED(トラック在庫表示システム)」の運用を開始しました。交通事情や天候、お客さまでの滞留などで前後していたトラックの帰社予定時刻を、ドライバーのスマートフォンからのリアルタイムな情報とAIを使って正確に予測できるようにしたものです。

これまではベテランの勤と経験・対応していた、お客さまからの帰社時間を正確に算出～表示することで、加工工程・積込み・納品書発行段取りの優先順位を明確にし、待機時間の削減につなげました。

車種	帰社予定時刻	車番	回転数	走行距離
1	15:09	F2000	---	---
2	15:14	F2600	---	---
3	15:19	F3000	---	---
4	15:27	F2300	---	---
5	15:37	F1900	---	---

Topics
4職場の安全・安心を
全員参画で創る

仕組み化と多様性への対応で「労災ゼロ」を目指す

ものづくり企業において、労災のない安全・安心な職場づくりは、事業継続においてはもちろん、社員の定着面でも採用面においても大きなテーマです。習熟度の異なる様々な社員と協働することが今後一層増えるなかで、多様性を配慮した取り組みも必要になってきています。

五十鈴グループでは「労災ゼロ」を目指し、日々の安全への取り組みをノウハウとして蓄積するとともに、外部に提供しています。



各社の特徴を生かした取り組みを、グループノウハウへ

スチールサービス部門では、共通の安全対策を行う他、各社独自の取り組みを実践しています。

五十鈴関東では「安全カルテ」を作成し、一人ひとり異なる、安全に対する意識・行動傾向を踏まえ対策を行っています。集中力を高め、理解不足の部分はマネジャーがフォローすることで知識を定着させることを狙っています。

五十鈴中央では、ITツールを活用した安全策強化に力を入れています。「インカム」を活用し、イレギュラー作業時や遠隔でも互いに声掛け、フォローできる体制をつくっています。また工場内に複数のリモートカメラを導入し、現場に入らなくても集中が途切れやすい時間帯の注意喚起や、安全パトロールの指摘事項遵守を支援しています。

五十鈴東海では、人材の流動化が激しいエリアの中で、外国人技能実習生や派遣・パート社員など、多様な人材の能力が発揮される状況をつくる必要性が高まっています。そこで、文化・言葉の違いや技術の習熟度に合わせた、教育に力を入れています。

効果のある取り組みは、グループ展開しながら外部に提供できるノウハウとして蓄えています。

WEBカメラを活用した、
工場遠隔モニタリング

アイ・ティー・シーでは、実際に現地に行かずとも、工場長やマネジャーのマネジメントを支援できるように、WEBカメラを活用した安全に関する工場遠隔モニタリングを実施しています。

海外のサービスセンターに対し実施することにより、日常的なモニタリングが可能になり、例えば「安全パトロールで決めたことが守られているか」が把握できます。レポートとWEBミーティングを通じ、改善点を共に検討しています。



価値創造を支えるCSR活動

五十鈴グループでは、「ビジョナリーカンパニー」のコンセプトに基づき、経営目標実現を通じて、いつの時代においても、創業者精神である「世の中に必要な存在」として、価値を生み出すことを大切にしています。

そして、「CSR (Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任)」を、価値創造に向けた取り組みのベースとなるものにとらえ、活動しています。

全体像と推進プロセス・体制は以下のようになっています。



The Visionary Company

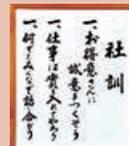
揺るぎない理念を实践することで、常に組織として成長・進化していく企業体
「気分よく働けて、業績がよく、自己成長できる会社」

長期経営目標 (2020年) 「Will-Navi」

ビジョン 世界に通用するグローバル・バリューセンター

ミッション 明るく、素直に、豊かな心で
世界と協生・協栄するビジョナリーカンパニー

理念 (社訓・創業者精神)



五十鈴の[CSR]の考え方

- 理念（社訓・創業者精神）のもと、透明性の高い経営体制とステークホルダーとの良好な関係を構築・維持し、経営目標の実現を通じて社会に貢献していく
- 運営に当たっては、各ステアリングコミッティが自律的に目標設定し、活動促進の中心となる

ステークホルダーとの「協創」を通じて、価値を創造する

五十鈴グループのCSRは「ビジョナリーカンパニー」のコンセプトと経営目標、理念に基づき、世界中のあらゆるステークホルダーとの協生・協栄によって、実現されるものであると考えています。

そのため、ステークホルダーの皆さまと、双方向のコミュニケーションを通じて「協創」プロセスを育んでいくことが必要不

可欠です。五十鈴グループの全社員が、様々な機会を通じて協創を実践し、「世の中に必要な存在」であり続けることが重要であると考えています。

2010年度からスタートした「Will-Navi(長期経営目標)推進体制」と「CSR推進体制」をマネジメントシステムの核に据え、連動を図りながら、自社らしい経営を追求しています。

推進体制・推進プロセス

CSRへの取り組みを、総合的・体系的・計画的に進めるために、委員会およびステアリングコミッティを中心に活動しています。ステアリングコミッティとは、部門間にまたがるプロジェクトを行う際に、全社的な利害調整を行い、意思決定を行う組織です。五十鈴グループでは、以下の委員会およびステアリングコミッティを設置し、計画～活動～検証～軌道修正のサイ

クルを回しながら、年間を通じて活動を行っています。

なお、推進にあたっては、専任の部署や担当者を置かずに、グループ各社から選任されたメンバーが、各テーマ（＝ステアリング・コミッティ）の推進者になり、五十鈴グループの経営におけるその時々重点テーマを考え、実践しています。

CSR推進体制



ステアリングコミッティ年間推進プロセス



- 年度方針・強化ポイント策定
- 年度推進計画策定

- 拠点参画型活動推進
- サブステコミメンバーの組織化

- 四半期での進捗状況レビュー
- 年度の検証

CSRトピックス

労務コンプライアンス活動を拡大 (コンプライアンスステコミ)

コンプライアンス会議を中心とした、現場主体の日常的なコンプライアンス活動が実施されている一方で、労務コンプライアンスについては世間の注目が高まる中、取り組みを強化していく必要があります。

2018年度は労務管理のポイントや法的根拠や、法令改正も踏まえた、実務的コンプライアンスセミナーを実施、実践力を高めてまいります。特にワーレックスにおいては、サービスセンターからのフィードバックも含め、グループ全体で対応していきます。



デジタル化に適合する内部統制構築 (内部統制ステコミ)

ICT・AIなどデジタル技術の進展により、従来からの業務プロセスの改善・見直しが進む中で、業務改革と内部統制の双方の観点から最適な業務プロセスの再構築及び対象業務プロセスの文書化を進めています。

「システムの影響による使用不可リスク」、「誤作動の発生リスク」や「誤処理を検知できないリスク」などデジタル化に伴うリスク所在の認識・周知徹底を図り、具体的な対応を進めながら、最適な内部統制を構築していきます。



対策本部の代行機能強化 (BCPステコミ)

BCP(事業継続計画)ステコミでは、早期事業継続を図るにあたり、グループとして迅速に対応できる仕組みを整えるために、活動を進めています。

これまでは、本社および安城サービスセンターに対策本部を設置し訓練していましたが、当該拠点が被災地になった場合でもフレキシブルに事業継続できるよう、速やかに他サービスセンターを対策本部として機能させることに力を入れています。



安城サービスセンターでの対策会議

グループオリジナルの ITリテラシー研修実施 (ISMSステコミ)

ISMSステコミでは、ICT化に対応するためのリテラシー教育を階層ごとに実施します。

基本的な業務や情報セキュリティに関する知識を身に着ける「新入社員編」、業務のあり姿を理解した上で様々なICTツールの使い方を習得し、効率化が図れる「中堅社員編」、最新ツールの知見を得、バリューセンターに即したワークスタイルを推進する「リーダー推進者編」のラインナップで年間展開していきます。



ワーレックス大阪営業所 エコドライブ活動コンクール 優良賞受賞(ワーレックス)

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団が、環境に配慮した取り組みを広める「エコドライブ活動コンクール」にて、ワーレックス大阪営業所が30事業所ある優良事業所の一社として選ばれ、2017年11月に表彰されました。

小集団活動としてエコドライブ活動を取り入れたことで、実際に燃費2.7%向上、燃料にして2,500ℓ/年の削減となりました。

引き続き、環境に配慮した自動車使用を実践してまいります。



社内勉強会

採用サイトリニューアル (IRステコミ)

IRステコミでは、学生向けの採用サイト「夢を叶える Team 五十鈴」をリニューアルオープンしました。より五十鈴の取り組みや人について理解を深めていただき、五十鈴をフィールドに、一緒に働きたいと感じてもらおう方に多く出会うことが目的です。

象徴的な数字から企業像を紐解く「数字で見る五十鈴」や社員紹介ページなど、今の五十鈴をわかりやすく紹介する内容となっています。



事業概要

スチールサービス部門

鋼板流通マーケットの中で、加工・販売にとどまることなく、最適鋼板流通サービスを追求しています。基幹システム「ATOM」を中心に、母材調達～発注～加工～配送などのプロセスのオートメーション化・IT化を推進しながら、お客様の購買戦略・業務変革に貢献することを目指しています。



五十鈴関東（小山 SC・太田 SC・高崎 SC）
五十鈴中央（大和 SC・青梅 SC・富士 SC）
五十鈴東海（安城 SC・岐阜 SC・浜松 SC）

ソリューション部門

スチールサービスで培ったノウハウをベースに「流通」「財務・法務」「IT・業務」「技術」「組織開発・変革、人財開発」の5つの領域でお客様の経営進化に貢献することを目指しています。鋼板流通のみならず、あらゆる業界・お客様にも適応可能な、経営ソリューション & コンサルテーションサービスを展開しています。



五十鈴ビジネスサポート（流通）、五十鈴マネジメントサービス（財務・法務）、ベル・インフォ・テック（IT・業務）、アイ・ティー・シー（技術）、アイ・コミュニケーションズ（組織開発・変革、人財開発）

ロジスティクス部門

北は仙台から西は大阪まで24営業所にわたるネットワークと、鉄鋼、自動車流通における物流ノウハウをベースに、ロジスティクスの観点から物流会社・荷主企業と共に最適な事業環境を構築します。



ワーレックス、五十鈴倉庫、五十鈴オート整備工場

ライフサービス部門

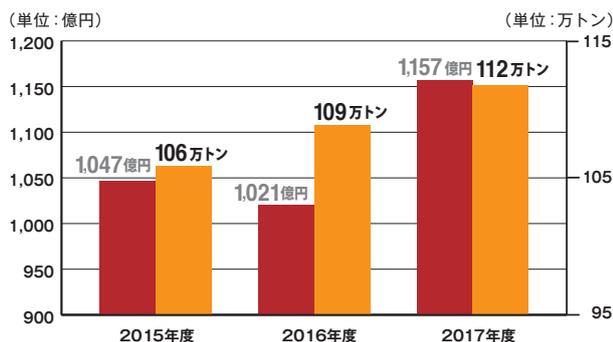
お客様の大切な資産である土地建物に対して各種ソリューションを提供し、お客様の期待を超える価値の創造により、現在から将来にわたる建物の可能性を見出します。



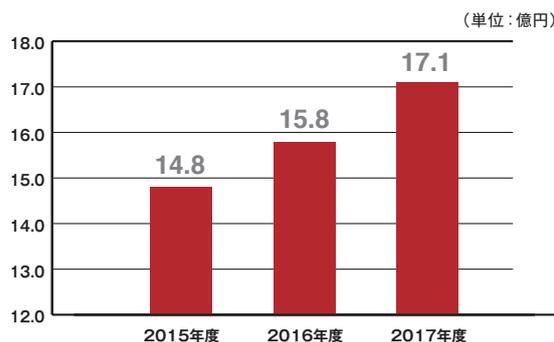
五十鈴建設

財務データ

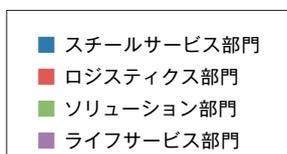
グループ連結売上高／鋼板販売量



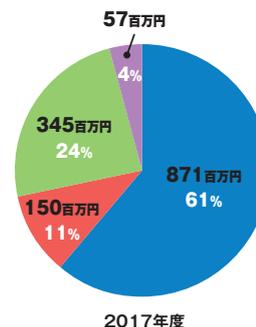
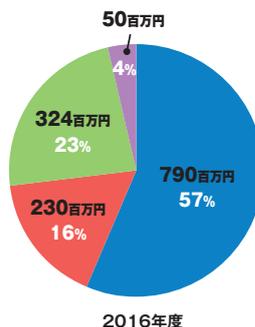
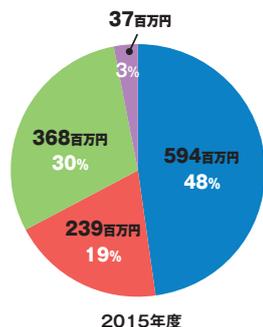
グループ連結純利益



利益構成(部門別)



※ 本社（連結消去を含む）を除く



ビジョナリーレポート 2018

発行:2018年6月(年1回発行)

発行元:五十鈴グループIR委員会

企画・編集:株式会社アイ・コミュニケーションズ

五十鈴株式会社

<http://www.isz.co.jp/>